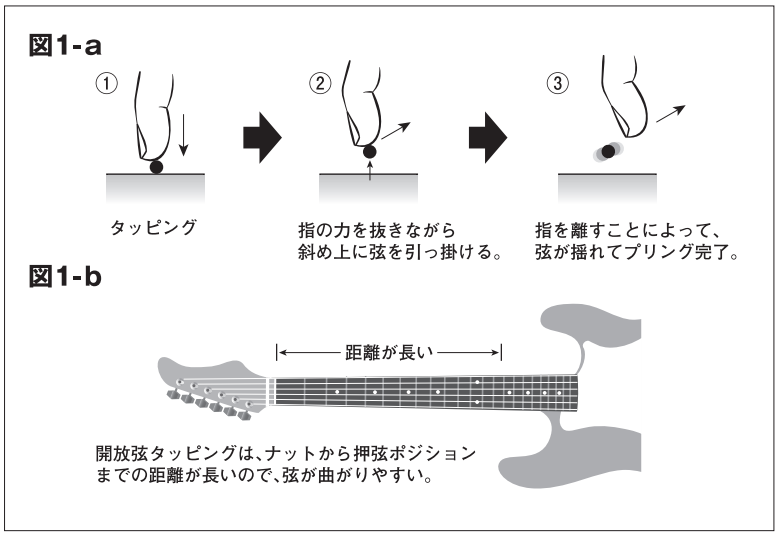
注意点1 右手

開放弦タッピングは まっすぐ入り、斜めに抜け！

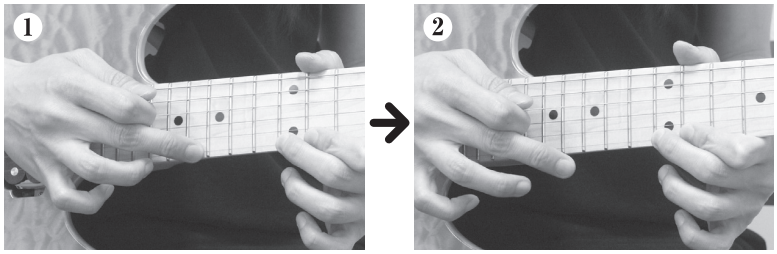
元祖ライトハンドから発展した開放弦を絡めたタッピング・フレーズは、キーボードを弾くような滑らかタッチで音を出す必要がある。そのために、スムーズなポジション・チェンジとレガートのように音を途切れさせないことに気をつけよう。そこで最も注意しなければいけないのは、開放弦への右手タッピング。開放弦へのタッピングは、しっかりと弦の真上から叩くようにし、離弦は指の力を抜きながら、弦を斜め上に引っ掛ける感じで行なおう（図1-a）。この時、通常の左手が押弦した状態でのタッピングに比べて、開放弦へのタッピングの方が弦を引っ掛け過ぎやすいので注意すること（図1-b）。これらの点を理解した上で、練習に臨んでもらいたい。



注意点2 左手

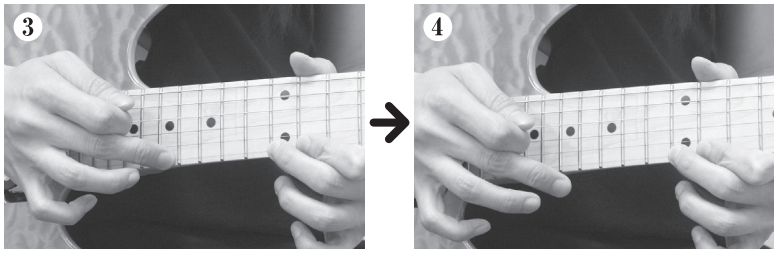
2回連続タッピングは 左手の押弦の固定化が重要！

このタッピング・フレーズは、1小節目のパターンをベースに、コード・チェンジを4回行ないながら、ポジションを変えていくものだ。実際に弾く際には、開放弦へのタッピング以外に、2拍目のタッピングを2回連続させる部分に注意すること。これは全小節に共通しているのだが、1小節目を例にして解説しよう。ここでは、1弦12フレットを中指で押弦したまま、1弦16フレットをタッピングし（写真①）、そして右手でプリングを行ない（写真②）、もう一度1弦17フレットをタッピングする（写真③）。この時、押弦している左手はしっかりと固定させておくことが大切だ。こうすることで、弦の振幅が最小限に抑えられ、右手のプリングが楽にできる。



1弦16fをタッピング。この時に左手の押弦は固定する！

1弦16fを右手でプリング。左手の押弦が崩れないように。



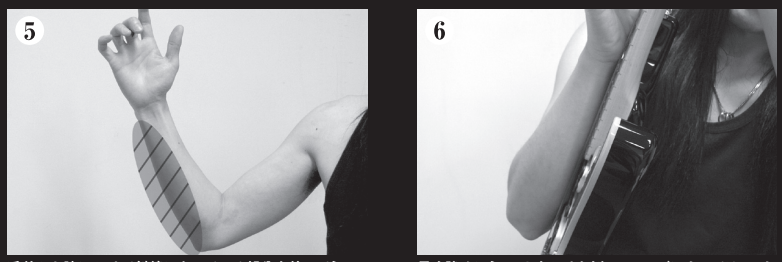
1弦17fをタッピング。ここでも左手の押弦は固定。

1弦17fをプリング。プリングは斜め下方向にしよう。

～コラム29～ 地獄の戯れ言

筆者が18歳の頃、家でライトハンドの猛練習をし、ライヴに臨んだことがあった。ところが、大音量でライトハンドを弾くとノイズ地獄に陥り、あえなく沈没。大音量となるライヴでは、ノイズ対策をしっかりと行なうことが大切だと気づかされた。通常右手で弦を叩くと、自然とギター全体が振動し、その他の弦も鳴って、ノイズが発生する。それを防ぐためには、右手の手首や腕などを使ってミュートをするようにすれば良いだろう（写真⑤&⑥）。特に低音弦側は振動しやすいので、右手でしっかりとミュートすること。

ノイジーなライトハンドに別れを！ ～右手ミュートのススメ～



手首から腕にかけて斜線になっている部分を使ってミュートしよう。ただし、フレーズによって使う部分は変化する。

最も強めにミュートをかけた例。フレーズによっては、これぐらいノイズ対策をする場合もあるので覚えておこう。